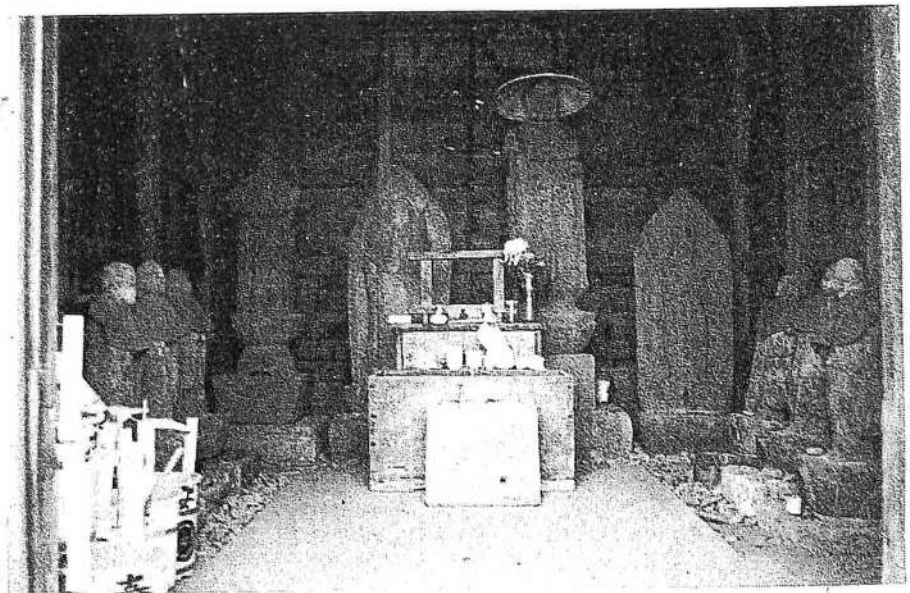


タウン情報⑬

光明寺騒動

久我山駅から北に向かう道は、昭和26年頃まで突当たりのT字路になっていて、そこに江戸時代には「光明寺」というお寺がありました。ところが、寺の住職が生臭坊主で檀家の後家さんに手を付けるというスキャンダルをおこし、村人から暴行を受け、それを代官所に坊主が訴え出ました。その為、下手人六人を投獄、喧嘩をし住職は追放され、寺は取り壊しになりました。

中に安置されていた仏像は墓地に移されました。堂内には、供養仏が祀っています。



光明寺墓地の地藏堂

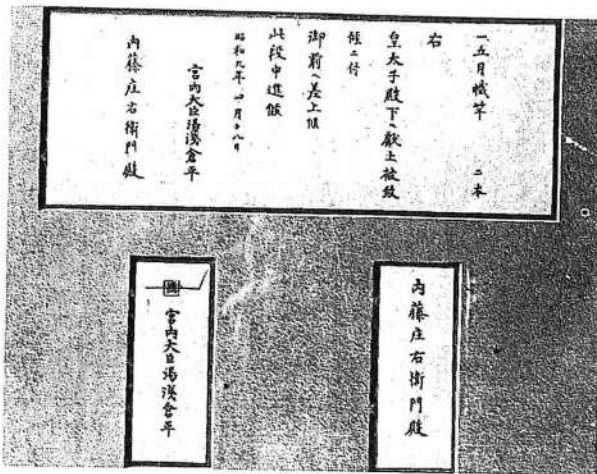
タウン情報⑭

高井戸丸太

江戸時代から杉並地方は高井戸丸太の生産地として知られていました。

その中の良材に手を加えて磨き、丸太として高値で取引されました。普通材は工事用の足場丸太として販売されました。特に、内藤庄右衛門、横倉善兵衛氏、宇田川豊松氏の持山から銘木が多く生産されました。

昭和9年4月、皇太子殿下の初節句のお祝いに内藤氏の磨き丸太が鯉のぼりの竿に献上されました。



献上品受領書（内藤庄右衛門氏蔵）



内藤庄右衛門家の杉林（昭和初年）

森 泰樹著「杉並区史探訪」より抜粋

タウン情報⑮

久我山の高射砲陣地

昭和18年太平洋戦争が熾烈化し空襲が必至になると、区内にある中島飛行機、荻窪工場と隣接の武蔵野市西窪にある武蔵野工場を防衛するために、区内に4ヶ所の高射砲陣地が造られ7インチ高射砲が配備されましたが、これでは届かず敵機は、悠々爆撃して去りました。久我山の高射砲を最新鋭の15インチ高射砲二門を20年7月に据えつけました。

8月1日、空襲できたB29を2機、撃破しました。

森 泰樹著 杉並風土記より抜粋



七センチ野戦高射砲 (潮書房提供)